

指導のポイント

- 学級経営の充実、学級目標を具現化するために、道徳の時間を活用します。
- 学級での生活が道徳の時間の学習に生かされ、逆に道徳の時間の学習が日常生活に生きて働くような学習指導課程の工夫が大切です。

具体的事例

- まずは、学級経営のビジョンがどのように道徳の時間に反映するかを明確にしましょう。

「学級における指導計画」の作成

学級経営の柱として道徳教育を推進していくためには、**育てたい心や生徒像**を明確にしておく必要があります。そのため学級担任は「学級における指導計画」の作成を通して、学級の道徳教育の基本方針を確認しましょう。

道徳性を育む、
こんな学級にし
たいなあ。

生徒にこんな心を
育てていきたいな
あ。



教師や生徒、
保護者の願
いを具体的
に生かした
いなあ。

学級経営の基
盤となるよう
な計画にする
にはどうすれ
ばよいかなあ。

※学習指導要領解説 第4章 第4節
「学級における指導計画」
(P. 77~P. 78) に
詳しく記されています。

- 基本方針が定まったら、さあ、道徳の時間を始めましょう！

学級での生活を道徳の時間の学習に生かす

生徒が、学級での生活を通して感じたり考えたりして得た、道徳的価値観を効果的に生かせるように、意図的・計画的に道徳の時間を設定します。

例えば・・・

- ・導入……アンケート、体験経験の想起、学級生活の中での写真の提示
- ・展開……生徒が実際の学級生活の中で経験したことを主人公の姿を借りて深められる発問や、指導時期の設定
- ・展開や終末…実際の学級生活に基づいた自己の振り返り
- ・終末……生徒作文等の活用、学級内の実話に基づく説話
などの工夫を考えましょう。

※ 自己の振り返りに書く活動を取り入れ、生徒の心の変容や成長を知ること、生徒理解を深めることができ、学級経営に生かすことができます。

また、生徒が書いたものはファイルなどして、生徒が自分自身の感じ方や考え方の変化を確かめたり、自分自身の成長を実感し、明日への課題をもつように活用したりすることができます。

○ こうして行った授業をその時間だけで終わらせないために…

道徳の時間の学習が学級での日常生活に生きて働く工夫

ア 道徳の時間に学習したことを「道徳コーナー」として、掲示する。

- ・ 道徳の時間に育んだ道徳的価値の自覚や、それに基づく人間としての生き方について、折にふれ振り返ることができます。



工夫を凝らした「道徳コーナー」の掲示

- ・ 特に学級経営上、重点化を図りたい内容項目について「私たちの道徳」を生かした掲示物を工夫することも効果的です。

イ 朝の会や帰りの会等に、道徳的実践を認め、賞賛する場を設ける。

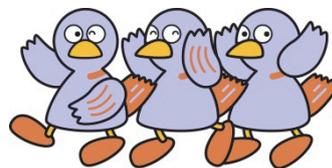
- ・ 授業によって育んだ道徳的実践力を実際の行動（道徳的実践）に移せた生徒に学級の他の生徒自身が気づき、認め合う風土を育てます。
- ・ 学級担任が学級通信等で、道徳的実践を認め賞賛するコメント等を紹介することもできます。



ウ 生徒指導と連携する。

【例えば・・・】

- ① 内容項目2ー(1)を道徳の時間で扱う。
- ② 〇月の生活目標が「あいさつをきちんとしよう」である。
- ③ 学級活動(2)において、自己決定をさせる。
- ④ その月において、自己決定したことの道徳的実践ができたかどうかを確認していく。(シールを貼るなど)



Point

- しっかりとした「生活」や「よりよい人間関係(学級集団)」が基盤にあっても、道徳の時間や道徳教育がその効力を発揮することができます。逆に学級における諸問題は、その都度対処的な指導に取り組む必要もありますが、日頃からそのような問題を起こさない・仮にそのような問題が起こったとしても早期発見、早期解決できるような道徳的資質を育てておくことで防ぐことができます。
- 学級経営には保護者の理解と協力が不可欠です。ふだんから担任の道徳教育に対する想いや熱意、それを基盤としてどのような学級経営を目指しているのかを保護者に伝えておくことも大切です。

留意点

- 学級経営と道徳の時間の関連を図ることは大切ですが、その特質をしっかりと理解して指導にあたりましょう。
 - ※ いじめを例にして考えると、“いじめをやめさせる”指導は学級活動です。これに対して、道徳の時間は「道徳的実践力」の育成＝いじめをしない資質を育てる指導を行うものです。
- 道徳の時間の指導は、即効性を求めません。また、道徳の授業の指導が授業以降の様々な教育活動に生きることもありますが、本来、特定の教育活動の成果を狙って行うものでもありません。